

# 『二心千里』

永田隆一



第30回

走ってれば、  
見えてくる

ふりむくな  
ふりむくな  
うしろには夢がない  
詩人、寺山修二の言葉  
です。

『亮太さん、私がイン  
ターンでお世話になった  
のは、4年前でした。当  
時、円ドルの為替レート  
は120円でしたが、現  
在は80円弱。大変な経済  
環境になりましたね』  
『雄介君、今の日本は、  
道に落とし穴がたくさん  
掘られているような状況  
という人がいます。しか  
し、半分の落とし穴は、  
自分で掘ってしまった、

## 過去を振りかえらず、前向きに、 はりきってまいりましょう

あるいは落とし穴と分か  
つていて、自ら落ちてし

を抑えていけばよかつた  
という、反省の声も聞き

さんから教わった、結婚  
は判断力の欠如、離婚は、  
忍耐力の欠如、そして、再  
婚は、記憶力の欠如……』

『(笑)』  
『しかしね、人間、誰  
しもへまもやるし、落と  
し穴にも落ちるし、失敗  
を重ねながら、成長する  
ものだと思いません。実際

『ますます厳しい感じ  
がします。ご老人が増え  
ているでしょう。若者は、  
東京へ流れるでしょう。  
不景気だから、皆さん、  
財布の紐を緩めない。永  
く続いたお店もみんな  
閉めています。ただし、  
家賃や、食料品、衣料の

『あら、りっぱなこと  
言うようになったわね。  
でも母さん、うれしいわ。  
ありがとう。雄介、祇園  
にお鍋でも食べに出かけ  
ましょうか』  
『いいねえ、熱燗を親  
子でやりますか』  
『そのあと、母さんの先  
輩がやっているバーで、  
飲みなほそつよ』  
『雪松ねえさんのこと  
ろね。いいよ』  
雅が外へ出ると、冬の  
京都に雪が舞っている。  
4年前の雪と、少しも姿  
わらない。きつと、10年  
後の雪も、100年後の  
雪も少しも変わらない。  
変わるの、生きている  
人間たちと、その人間た  
ちが作り出した社会であ  
る。

『雄介、雪が降って  
るわ、マフラーを持って  
きましょうね』  
(毎月掲載)

まったく、大いに前向き  
に話される方もいまし  
た。たしかに、原発事故  
も、冷却用電源さえ確保  
できていれば、大惨事は  
防げていたはず。その  
危険性も指摘されてい  
ました。また企業も、利  
益を積んでいたのに、無  
謀な投資や、無駄な経費

『亮太さん、話は変わ  
りますが、面白いアンケ  
ート結果があります。3  
回以上結婚した男性に確  
認したところ、圧倒的に  
最初の妻が一番良かった  
というものです』  
『ほう。面白いね』  
『そうです。亮太

に行動して、大きな壁に  
ぶつかって、改めて深く  
考えることで、成長して  
いく。また、そういう人  
達に接すると、元氣と勇  
氣をいただける。そして、  
そのひとたちの言葉は、  
染み込んでくるようなか  
たちを取ることが多い。  
誰でもそうですが、艱難

『亮太さん、落とし穴  
のたとえは、面白いわね』  
『そうなんだ、そのく  
らいに、余裕がある態度  
は素敵だと思っ。そうい  
えば4年前に、京都の町  
も不景気で、閉塞感にす  
っぽり包まれているよう  
だと雅ちゃんが言ってい  
ただけで、最近はどうだ  
いこうと考えているの』

値段は、どんどん下がっ  
ているから、暮らし向き  
は楽という人も多いのも  
事実。ただし、お給料も  
下がっているから、年金  
生活者は楽で、子育ての  
現役世代は厳しいという  
色分けができます』  
『これからどう生きて  
いこうと考えているの』

『母さん、楽しいよ。20  
年成長を止めた日本は、  
価格競争で、市場のパイ  
を奪い合っている不毛な  
構造だと思っ。しかし、  
僕が働いている発展途上  
国は、元気に満ち溢れて  
いる。きつと、今後20年  
で、いくつかの国は、先  
進国の仲間入りを果たす  
と思っ。それを、内部で  
経験した生き証人に、僕  
はなりたい。そのために、  
寝食を忘れて勉学に励ん  
でいるんだ』

『雄介、雪が降って  
るわ、マフラーを持って  
きましょうね』  
(毎月掲載)